



このガイドでは、Oracle BI プレゼンテーション・カタログの管理方法を説明します。カタログ・マネージャと、カタログ・マネージャで実行可能なカタログ管理タスクの一部について説明します。

これらおよびその他のタスクの詳細は、Oracle Technology Network の [Oracle BI EE ドキュメント](#) を参照してください。



カタログ・マネージャについて

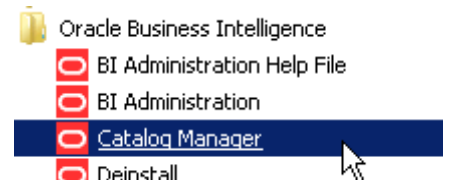
カタログ・マネージャは、Oracle BI プレゼンテーション・カタログのオンラインおよびオフラインでの管理を可能にするツールです。カタログ・マネージャの用途は次のとおりです。

- フォルダ、ショートカットおよびオブジェクト(分析、フィルタ、プロンプト、ダッシュボードなど)の管理。
たとえば、オブジェクトの名前変更や削除を実行したり、カタログ内およびカタログ間でオブジェクトを移動およびコピーできます。

- Extensible Markup Language(XML)でのカタログ・オブジェクトの表示および編集。
- 分析やプロンプトなどのオブジェクトのプレビュー。
- カタログ・テキストの検索および置換。
- カタログ・オブジェクトの検索
- カタログ・データを表示するための分析の作成。
- キャプションのローカライズ。

カタログ・マネージャの起動

Windows の「スタート」メニューから、「Oracle Business Intelligence」→「カタログ・マネージャ」を選択します。



Oracle BI プレゼンテーション・カタログのオープン

1. カタログ・マネージャの「ファイル」メニューから、「カタログを開く」を選択します。
2. 次のリストの説明に従って、必要なフィールドに入力します。
 - **タイプ** – カタログを開く際のモード(オンラインまたはオフライン)を選択します。
 - **パス** – オフライン・モードでカタログを開く場合は、ローカル・ファイル・システム上のカタログ・フォルダへのパスを入力します。
 - **URL** – オンライン・モードでカタログを開く場合は、Oracle BI プレゼンテーション・サービスへの URL を入力します。
注意: オンライン・モードでカタログの URL を指定する場合は、セキュリティを強化するために http ではなく https を指定してください。
 - **ユーザー** – オンライン・モードでカタログを開く場合は、ホスト URL のユーザー名を入力します(オフライン・モードでは無効)。
 - **パスワード** – オンライン・モードでカタログを開く場合は、ホスト URL のパスワードを入力します(オフライン・モードでは無効)。
 - **ロケール** – オンライン・モードでカタログを開く場合にカタログ・マネージャのユーザー・インターフェース要素およびカタログ内のオブジェクトに使用するロケールを選択します。
 - **読取り専用** – 読取り専用モードでカタログを開く場合は、このフィールドを選択します(オフライン・モードでは無効)。
3. 「OK」をクリックします。

カタログ・マネージャの作業領域について

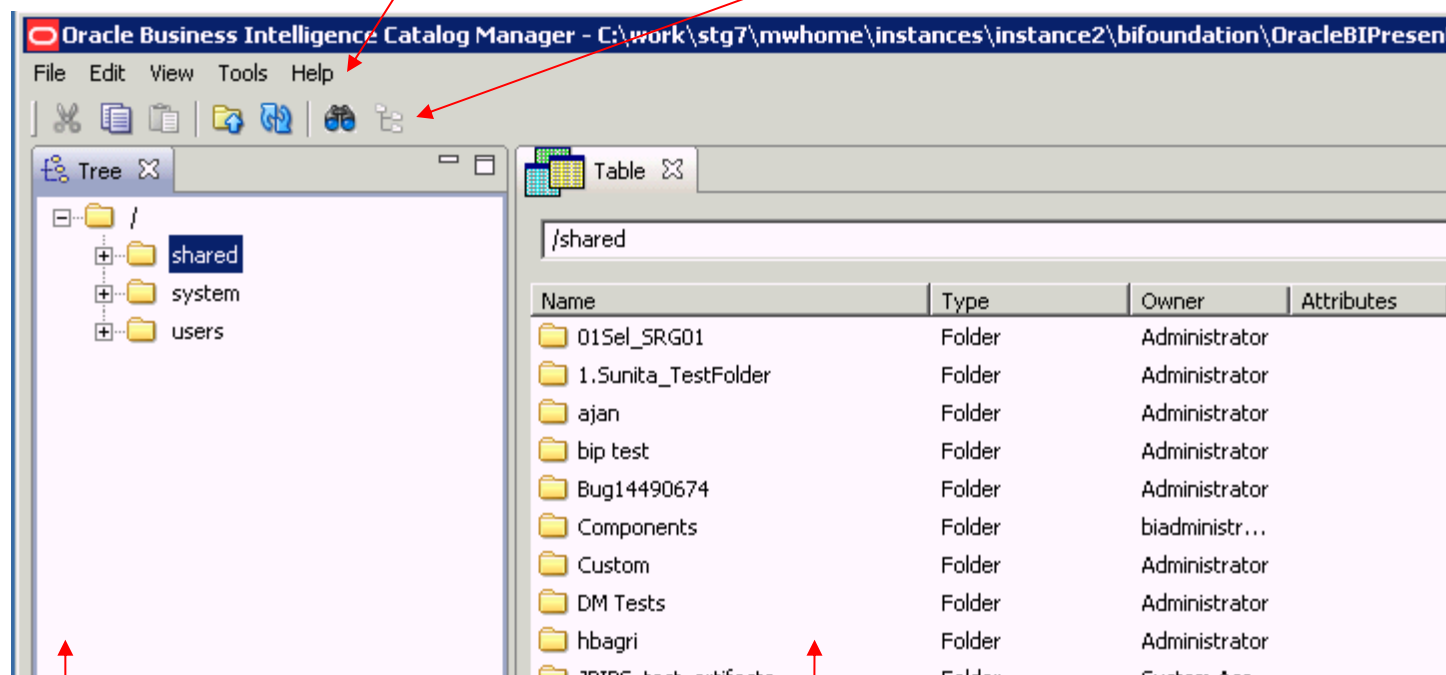
カタログ・マネージャの作業領域では、カタログ・オブジェクトを表示および操作できます。開いているカタログについて次のフォルダが表示されます。

- **共有フォルダ** – カatalog・ユーザー間で共有するコンテンツが含まれています。これには、事前作成されたアプリケーションによって配布される事前構成済ダッシュボードと分析、および共有フィルタなどのその他のオブジェクトが含まれています。

- **システム・フォルダ** – プレゼンテーション・サービスの管理要素が含まれています。これらの要素には製品によって配布されるものと、権限など管理者が構成するものがあります。このフォルダ内のファイルは変更しないでください。プレゼンテーション・サービスは、これらのファイルを内部的に使用しています。
- **ユーザー・フォルダ** – 適切な権限を持つカタログ・ユーザーが彼らの個人フォルダに保存した、個別の分析などのコンテンツが含まれています。

メニュー・バー – 「ファイル」、「編集」、「表示」、「ツール」、「ヘルプ」の各メニューにアクセスできます。

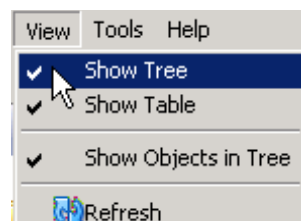
ツールバー – 「切り取り」、「コピー」、「貼付け」など、よく使用するオプションにすばやくアクセスできます。



ツリー・ペイン – カatalog・フォルダを表示します。このペインには、オブジェクトも表示されますが、それは「表示」メニューの「オブジェクトのツリー表示」オプションが選択されている場合のみです。

表ペイン – カatalog・フォルダおよびオブジェクトを表示します。ナビゲーション・バーが組み込まれていますが、ここにカタログ・オブジェクトのパス名を入力することで、そこに移動できます。

カタログ・マネージャの作業領域の表示の管理

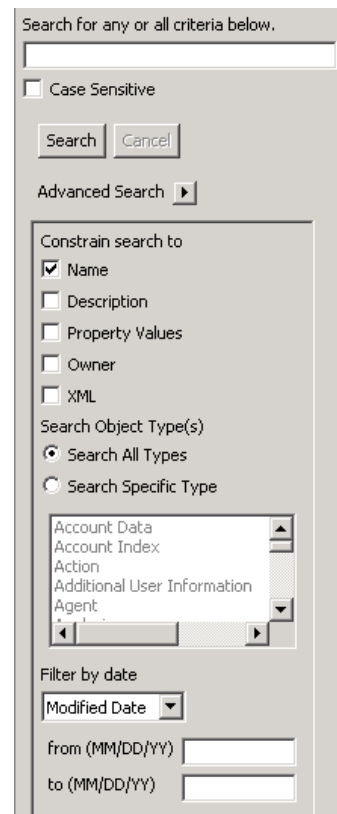


1. カatalog・マネージャの「表示」メニューから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **ツリーの表示** – ツリー・ペインを閉じていた場合はそれを表示します。
 - **表の表示** – 表ペインを閉じていた場合はそれを表示します。
 - **ジョブ・ステータスの表示** – バックグラウンド・ジョブ・ステータス・ペインを表示します。ここで、検索と置換など、実行したプロセスの進行状況を表示できます。
 - **オブジェクトのツリー表示** – フォルダに加えてオブジェクト(分析、フィルタなど)を表示します。
 - **リフレッシュ** – ツリー・ペインおよび表ペインに表示されているオブジェクトをリフレッシュします。

カタログ・オブジェクトの検索

1. カタログを開き、ツリー内の検索を開始する場所に移動します。
2. ツールバーの「**検索**」をクリックします。
3. 「次の基準の一部またはすべてを検索します。」フィールドに、検索する語句を入力します。
4. 検索で大文字と小文字を区別するには、「**大文字/小文字の区別**」ボックスを選択します。
5. 検索を制限するには、「**拡張検索**」をクリックします。
6. 「拡張検索」領域で、検索の制約を指定します。次の項目で検索を制限できます。
 - **名前** – 検索をオブジェクトの名前に制限します。
 - **説明** – 検索を「説明」プロパティに制限します。
 - **プロパティ値** – 検索をプロパティの値に制限します。
 - **所有者** – 検索をオブジェクトの所有者に制限します。
 - **XML** – 検索をXMLに制限します。
 - **オブジェクト・タイプ** – すべてのタイプのオブジェクトを検索するか、指定した特定タイプのオブジェクト(分析、フィルタ、エージェント、ダッシュボード・プロンプト、ダッシュボード・ページなど)に検索を制限します。
 - **日付** – 指定した日に作成されたオブジェクト、または指定した日に最後の変更が実行されたオブジェクトに検索を制限します。
7. 「**検索**」をクリックします。

ヒント: 検索を終了したら、ツールバーの「**カタログ・ツリー全体の検索**」をクリックし、ツリー・ペインまたは表ペインに戻ります。



カタログ間でのオブジェクトのコピーおよび貼付け



注意: 2つのカタログが同じ名前の場合、開く前に一方のカタログの名前の変更が必要になる場合があります。これによって、作業対象の2つのカタログの区別が容易になります。これらのカタログは両方とも、同じバージョン 11.1.1(またはそれ以降)である必要があります。

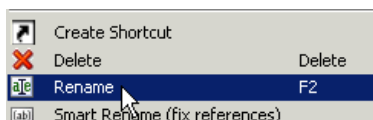
1. カタログ・マネージャの2つのインスタンスを起動します。一方のカタログ・マネージャ・インスタンスで、ターゲット・カタログ(変更するカタログ)を開きます。カタログ・マネージャのもう1つのインスタンスで、ソース・カタログ(コピーするオブジェクトを含むカタログ)を開きます。
2. 必要に応じて、画面上のカタログ・マネージャの両方のインスタンスの位置を調整し、両方のカタログ・マネージャ・インスタンスのタイトル・バーが表示されるようにします。
3. ソース・カタログを表示しているカタログ・マネージャ・インスタンスで、ソース・オブジェクトを右クリックし、「**コピー**」を選択します。
4. ターゲット・カタログを表示しているカタログ・マネージャ・インスタンスで、ソース・オブジェクトを貼り付ける場所を右クリックし、「**貼付け**」を選択します。

カタログ・オブジェクトの名前の変更

参照更新なし

オブジェクトの名前を変更し、他のカタログ・オブジェクトで使用されている可能性がある元の名前への参照を保持します。

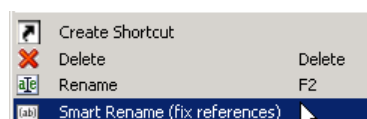
1. カタログを開きます。
2. 名前を変更するオブジェクトに移動します。
3. 「名前」列でオブジェクトを右クリックし、「**名前の変更**」を選択します。
4. オブジェクトの新しい名前を入力します。



参照更新あり

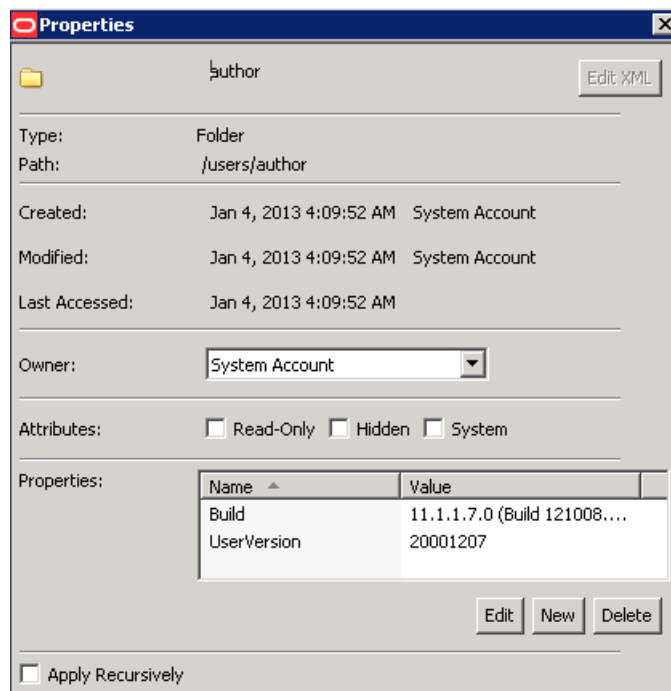
オブジェクトの名前を変更し、他のオブジェクトが使用している可能性がある参照を新しい名前に変更します(元の名前の参照は保持されません)。

1. オフライン・モードでカタログを開きます。
2. 名前を変更するオブジェクトに移動します。
3. 「名前」列でオブジェクトを右クリックし、「**スマート名前変更**」を選択します。
4. オブジェクトの新しい名前を入力します。

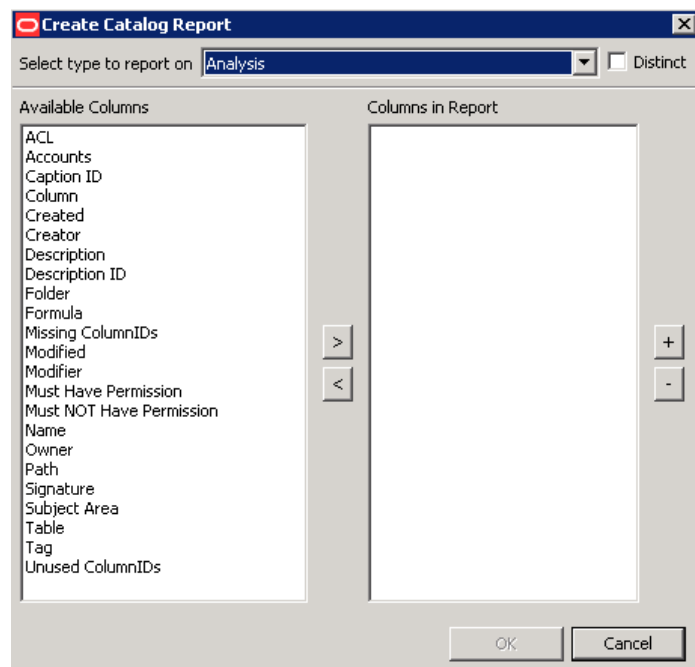


カタログ・オブジェクトのプロパティの操作

1. カタログを開きます。
2. オブジェクトに移動します。
3. 「名前」列でオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
4. オブジェクト所有者やオブジェクト属性の変更など、必要な作業を実行します。
注意: プロパティの作成には、「新規」ボタンが使用されます。このボタンは、Oracle サポート・サービスから指示された場合のみ使用してください。
5. 「OK」をクリックします。



カタログ・データを表示するためのレポートの作成



注意: レポートは画面に表示したり、ファイルに保存することができます。レポートを作成すると、空白または空のフィールドがタブ文字としてエクスポートされます。デフォルトの、タブをフィールド・セパレータにしたレポートを作成した場合は、レポート・ファイル内の2つのタブ文字で空白フィールドが表示されます。

1. カタログを開きます。オブジェクトの Oracle BI サーバーに送信される SQL 文を示すレポートを作成するには、オンライン・モードでカタログを開きます。
2. カタログの最上位フォルダを選択します。
3. 「ツール」メニューから「レポートの作成」を選択します。
4. レポートを作成するカタログ・オブジェクト・タイプを選択します。
5. レポートから同一の行を排除するには、「個別」ボックスを選択します。
6. 「レポート内の列」リストで、レポートに表示する列を指定します。左矢印および右矢印ボタン(<および>)を使用して、列を「使用可能な列」リストと「レポート内の列」リストの間で移動します。プラスおよびマイナス・ボタン(+および-)を使用して、レポート内での列の表示順序を設定します。
7. 「OK」をクリックします。
8. レポートに適切な列が含まれるようになるまで、手順4から7を繰り返します。
9. ファイルにレポートを保存するには、「レポートの保存先」フィールドにファイルのパス名を指定します。「参照」ボタンをクリックし、「名前を付けて保存」ダイアログを表示してパス名を選択します(ファイルが存在していない場合は、それが作成されます)。
10. Microsoft Excel にインポート可能な.tab 拡張子付きのファイルを作成するには、「Excel 形式」を選択します。
11. 「OK」をクリックします。